

# アルコールの薬物としての特徴とは？

アルコールは、もちろん薬物の一つで、しかも**依存を形成しやすい薬物**です。これは、アルコールが水にも油にも溶けやすい特徴を持つ物質で、脳に移行しやすいことも一因と考えられます。

依存性薬物の分類

| 依存性薬物の類型          | 精神依存  | 身体依存  | 耐性形成  |
|-------------------|-------|-------|-------|
| モルヒネ型             | ● ● ● | ● ● ● | ● ● ● |
| <b>アルコール・睡眠薬型</b> | ● ●   | ● ●   | ● ● ● |
| 覚せい剤              | ● ●   | ● ●   |       |
| コカイン型             | ● ● ● |       |       |
| 大麻型               | ● ●   |       |       |

上の表のように、アルコールは、モルヒネ型の薬物に次いで、覚せい剤、コカイン、大麻よりも**依存を形成しやすい薬物**として分類されています。

- ①. 冬の寒い夜中でも、近くのコンビニへ酒を買いに行こうとするのが**精神依存**
- ②. 酒にだんだん強くなり、一定の酔いが得られるまでに必要なお酒の量が増えていくことが**耐性形成**
- ③. 酒が切れかけた時に手が震えたり、寝汗をかいたり、眠れなかったりするの**身体依存**



**アルコールは、**

**他の薬物に比べ、いずれの依存もできやすいのです。**

